

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	<p>①児童が主体的に学ぶ授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」「集中して取り組んでいる」への肯定的回答率がそれぞれ、90%以上である。このことからほとんどの児童が、主体的に授業に参加していると考えられる。</p> <p>②ICT 機器を活用して、考えの視覚化や共有などを行う学習に関して、発達の段階を考慮しつつ、できることを増やしている。</p>	<p>①アンケートでは肯定的な回答が多い一方、書きたい事柄を順序良く文章に書き表すことや、説明的な文章を整理して理解するなどの活動では、学習意欲や学ぶ楽しさの感じ方は個人差が大きくなると考えられる。<u>考える手がかりを提示したり学習過程をスモールステップにしたりするなどの工夫をする。</u></p> <p>②<u>学習支援アプリを活用し意見や感想を共有することで、興味・関心を高め、多様な意見を知ることで理解を深められるようにする。</u>学習者用端末を活用する機会を意図的に設ける。</p>
算数	<p>①東京ベーシックドリルの確実な実施と活用【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②学習者用端末を活用した学習の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①東京ベーシックドリルの診断テストで前学年の既習内容が7割以上定着している児童は4月の時点で55.8%だったが、7月では71.9%まで向上した。</p> <p>②1学期の授業アンケートから90%以上の児童が学習にすすんで取り組んでいる。授業でも積極的な発言や意欲的な姿勢が多くみられる。一方で、既習事項と結び付けて自分の考えを式や図で簡潔に表現することや、自分の思いを伝えることに苦手意識をもっている児童が多い。</p>	<p>①東京ベーシックドリルの活用を進め、さらに7割以上定着している児童の割合を80%にまで高める。学期始の診断テストで7割に満たない児童は補充学習を各学級で行う。<u>学期末の診断テストを活用し、その結果を評価する。</u></p> <p>②<u>ICTを活用し、既習事項の振り返りをしたり、他の児童と考えを共有したりする。</u>また、自分の考えや思いを伝える方法として<u>話型を示したり、少人数で交流したり</u>して、表現活動の経験を積ませる。</p>
生活	<p>①児童が思いや願いをもち、体験と表現を行き来する授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②興味・関心を高め、課題解決するための学習者用端末を活用した学習の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」が95%、「集中して取り組んでいる」が90%と肯定的回答率が高い。このことから、ほとんどの児童が、主体的に授業に参加していると考えられる。</p> <p>②カメラ機能や検索サイト等を活用して主体的に学び、学習支援アプリを活用して協働的に学んでいる。</p>	<p>①ほとんどの児童が、授業に対して肯定的な回答をしていることを生かし、児童が主体的・対話的で深く学べるよう、生活科で重要な<u>体験と表現の往還をさらに充実させる。</u>発言や行動、振り返りを活用し、評価する。</p> <p>②思いや願いの実現に向けて調べたり、対話したりするために、<u>学習者用端末を活用し、学びを蓄積したり、課題解決をしたりする。</u></p>
音楽	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童が89%であり、ほとんどの児童が主体的に授業へ参加している。一方で、「そう思わない」との回答が11%になるため、楽器演奏などの個人の差がしやすい題材などの配慮が課題である。</p> <p>②音楽演奏の多様な方法をICT教材で体験した。学習支援アプリを使用し、リズムの楽しさや旋律づくりの一環として音の動きを体験した。</p>	<p>①感覚統合が促進されるような常時活動や、体を動かす活動を取り入れることで、音楽的なコミュニケーション能力を高め、友達と一緒に表現する楽しさを感じ取ることができるように進める。また、<u>楽器演奏は個人のスキルに沿った指導を行う。</u></p> <p>②実験的また遊びになっってしまうないように、<u>実態に即した教材を選ぶことで学習意欲を喚起し、ICTを活用して、スモールステップの課題をくり返し練習させることで技能の習熟を図る。</u></p>
図画 工作	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目から「すすんで学習している」に90%以上の児童が肯定的な回答をしている。授業では、自分の作品づくりに時間がかかる児童の姿も見られる。</p> <p>②学習支援アプリを活用し、友達作品を意欲的に鑑賞することができた。ただ、よさを伝えることはできない児童もいた。</p>	<p>①②教師の見本(複数の種類、教師のねらいを落とし込んだものなど)を充実させたり、<u>友達の作品を共有する時間を充実させたりする。</u>年間の活動を通して、単元ごとの制作するよさや材料や道具を使う面白さに気付かせるようにする。</p>

<p>体育</p>	<p>①基礎体力の向上、体育的活動の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②動きの可視化、振り返り活動の充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①1学期の授業アンケートで「すすんで学習している。」に対して肯定的に回答した児童は95%であり、積極的に活動に取り組んでいることがわかる。休み時間を利用して、日常的に体を動かすことも必要である。</p> <p>②アンケート項目「授業は分かりやすい」において、肯定的な回答が90%以上である。学習の振り返りを行い児童の「分かった」の質・量をさらに高めていく必要がある。</p>	<p>①より運動の日常化につながるように、<u>児童が取り入れやすい（真似しやすい）活動を授業に設定していく</u>。また、<u>教師自身が休み時間に児童と共に活動し</u>、児童の実態を把握し、授業に生かしていく。</p> <p>②児童の「分かった」を高めていくために、<u>活動に合った振り返り（ハンドサイン、発言、ワークシートへの記述など）を行っていく</u>。また、<u>手本となる動きや自分の動きをICTを活用して可視化し</u>、振り返りに生かす。</p>
<p>道徳</p>	<p>①児童が主体的に学ぶ授業の充実【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>②ICT機器を活用した学習の充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①すすんで学習に取り組むことができる児童が多い一方で、集団で話し合う時には発言する児童に限られてしまう時がある。</p> <p>②すすんで学習に取り組むことができる児童が多いが、教材に正対し、自分事として考えを深めることが苦手な児童がいる。</p>	<p>①ワークシートを活用し、考える視点を明確にし、自分の考えをもつことができるようにする。また、<u>小集団で考えを交流したり、役割演技を行ったりすることで、自分の考えをもったり表現したりしやすくする</u>。</p> <p>②<u>デジタル教科書のスライドショー動画を視聴した後に話し合い活動に入ることで、より考えやすくし</u>、資料の内容、価値項目に迫りやすくする。</p>